

総合
2位

クラシック部門
1位

音のバランスが
抜群に良い!

ゼロオーディオ

ZH-DX200-CT

SPEC: ドライバーユニット: φ 5.78mm
再生周波数帯域: 8 ~ 24,000Hz
インピーダンス: 16 Ω / コード長: 1.2m

- バランス型
- カナル型
- カラー1色

music match

CLASSICAL
ACOUSTIC



識者
eye
サウンド
プロデューサー
大澤大輔さん

ゼロオーディオだけレベルが違う! 音楽そのものがピュアに聴ける



コンテストでも
高評価な製品!

[FRONT] [BACK] [LEFT] [RIGHT]

高音	中音の解像度	低音	装着感	遮音性	表現力	クリアー	価格
45	46	40	41	46	44.5	48	45.5
A	A	B	B	A	B	A	A

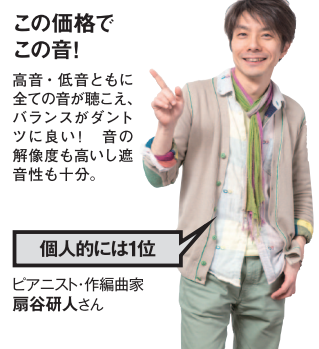
合計
356



小型で高性能なドライバー
中低音域の豊かな表情を得意とする5.78mm超小型マイクロドライバーユニットを搭載。タイトでコンパクトなフォルムが美しい



良音に必須な上質ケーブル
酸化物を含まない99.95%以上の高純度銅のOFC(無酸素銅線)を使用したフレキシブルケーブル。伝送漏れが少なく純粋な音源伝送を可能にする



この価格でこの音!

高音・低音ともに全ての音が聞こえ、バランスがダントツに良い! 音の解像度も高いし遮音性も十分。

個人的には1位

ピアニスト・作曲編曲家
扇谷研人さん

ゼロオーディオが堂々の1,2位!
満場一致で決まった堂々のワンツーフィニッシュ。3位とは20点以上の差だ。低音域から高音域まで変なギミックや誇張がなく、すべての周波数がきれいに聞こえ、音の解像度も高い極上品が揃った。

ありのまま聴けるギミックのない音が◎
総合1位と2位のゼロオーディオの素晴らしさはすべての音がバランス良く聞こえるうえ、低コストであることが飛び抜けた高い評価につながった。両製品は甲乙つけがたいが、違いは製品のテイストにある。と識者は話す。それはジャンル別評価に表れた。ZHDX210CB(1位)は音の情報量が多いポップスでトップの座に。その量を扱えるパワーを持ったドライバーのなせる技からだ。ZHDX200CT(2位)はクラシックのナンバーワン。小型ドライバーのため、低音域のさらに低い音域「Sub Low」の届きが少ない。しかし、クラシックにはこの音域がほとんどないため、音をそのまま聴くことができたのだ。好きな曲でイヤホンを使い分けることは、音楽タイムをより充実させる近道と実感した。
識者を唸らせた極上イヤホンに、座談会では製作会社について知りたいという声まで上がった。調べてみると、ゼロオーディオの生みの親、協和ハーモネット株式会社が電線などの事業が主流だが、オーディオ好きな上層部の声により新事業部を立ち上げ、ごまかしなしの最高品質の音作りに取り組んでいたのだ。音を追求する飽くなき探求が、スーパースターの製品を生み出した背景だった。